

市内全小学校（13校）での小学生向けモビリティ・マネジメントの普及展開・深度化について

秦野市都市部公共交通推進課 保坂富士雄・三嶽恵介 / 筑波大学大学院 谷口綾子 / 前秦野市教育部教育指導課 近藤順子

前秦野市都市部公共交通推進課 北村正臣・吉門靖徳 / (株)日本能率協会総合研究所 小林三千宏

■ 取組み概要

〈背景〉

- 平成16年度に策定した「秦野市TDM実施計画」に基づいて、市内の渋滞緩和等を主な目的に「はだの交通スリム化プロジェクト」として、11のTDM施策を検討・推進
- 5か年の取組みを踏まえ、秦野市TDM検討会から「はだの交通スリム化に向けた提言（平成21年度）」を受けて、引き続きノーマイカーデー（事業所自主参加型ノーマイカー・エコ通勤デー等）や、小学生向けMM（交通スリム化教育）などの普及拡大を図る（平成22年度～）

〈目的〉

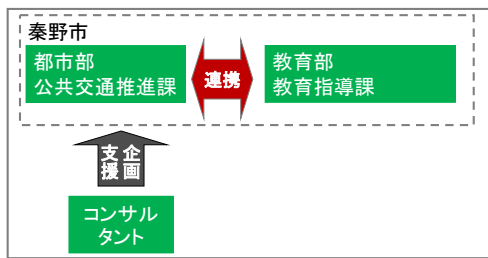
- 児童に対して、将来、クルマだけに頼り過ぎない交通利用意識のきっかけを作る
- 保護者に対して、授業参観や児童を通じた啓発から、クルマの利用を考えてもらうきっかけとする

〈対象〉

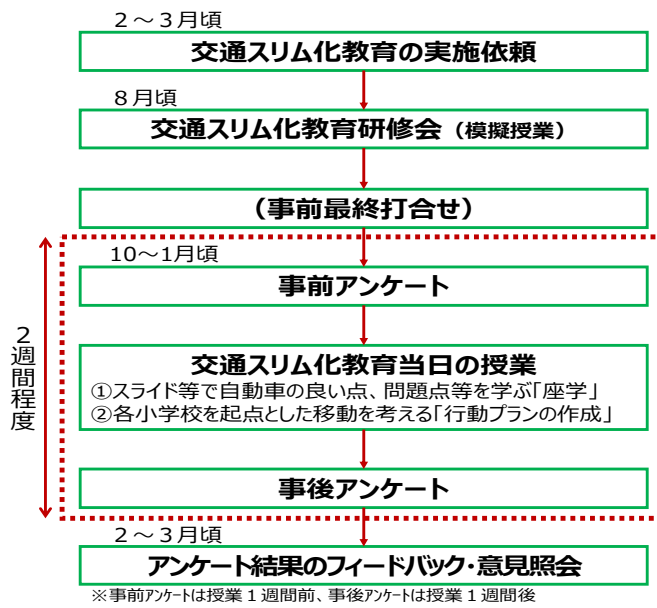
- 市内小学校の小学5年生、保護者及び教職員

〈実施体制〉

- 平成16年度から公共交通担当部門と教育担当部門が協働で事業を推進



〈取組みの流れ〉



〈座学〉

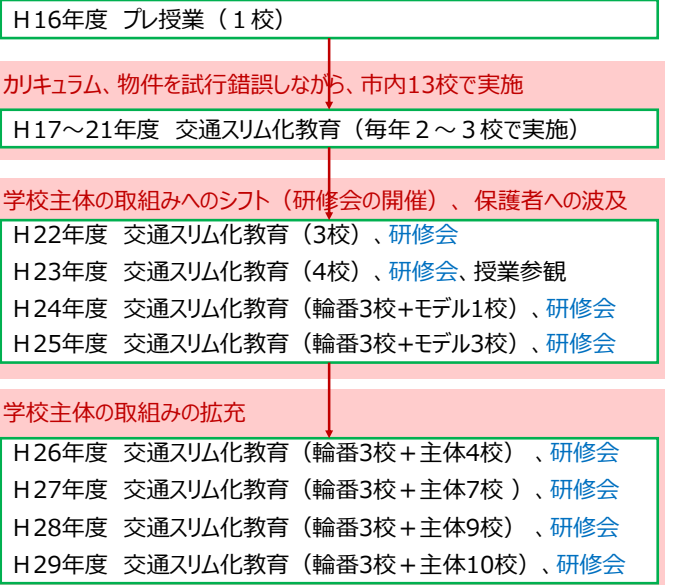


〈行動プランの作成〉



〈これまでの取組み状況〉

- 平成16年度にプレ授業を行い、平成17年度からの12年間で延べ59校、延べ約6,700人の児童に授業を実施※
- 平成22年度からは研修会を開催し、学校主体の取組みを推進



※児童数は、平成17年度から平成28年度までの、交通スリム化教育実施校の5年生（当時）の児童数の合計（当日欠席の児童も含む。一部児童数が概算の小学校も含む。）。

■ 教職員に対する支援の実施

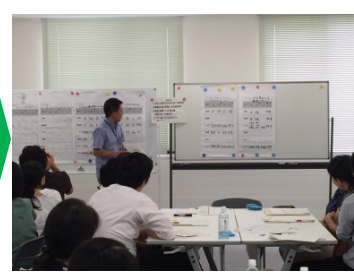
〈教職員を対象とした研修会の実施〉

- 「交通スリム化教育の意義等の伝達」「進行方法の講習」を目的に実施
- 研修会開催以降は、小学校の担任の先生が一貫して授業の進行を担当

〈有識者の講演〉



〈模擬授業〉



〈授業の進め方等に関するポイントの解説〉



〈交通スリム化教育標準マニュアルの作成〉

- 標準的な授業の進め方、授業を行う上でのポイント等を整理したマニュアルを作成

マニュアルの目次

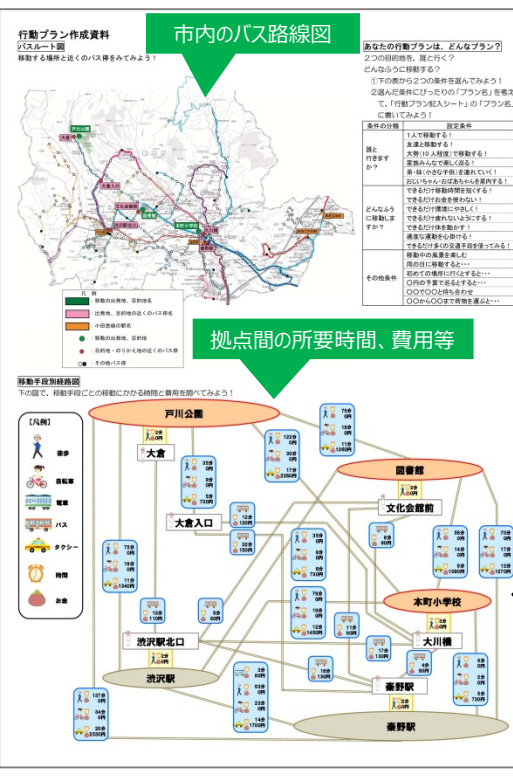
- はじめに
 - 取組みの経緯
 - 取組みの目的
 - 本マニュアルについて
 - 授業の流れ
 - 本取組みにおける役割分担
- 授業の準備
 - 行動プランでの目的地の決定
 - 当日のスケジュールの決定
 - 授業で使用する資料の調整
 - 授業で使用する道具の準備
 - 事前アンケート調査の実施
 - 保護者への授業の見学の呼びかけ
- 当日の授業の進行等
 - 座学の実施
 - 行動プラン作成の実施
- 授業終了後
 - 副読本の配布
 - 感想文の作成、事後アンケート調査の実施
 - フィードバック資料の掲示
 - 意見照会の実施
- 最後に



■ 物件の工夫（わかりやすさの改善）

- 拠点間の交通手段別の所要時間、移動に係る費用等を参考にして、児童が行動プランを作成
- わかりにくいという先生からの意見を踏まえ、情報提供方法を改善

〔使用物件（一例）〕



表形式（下記図）で情報提供していたものを図形式で提示

移動手段	所要時間	所要費用
徒歩	10分	0円
自転車	5分	0円
バス	10分	100円
タクシー	10分	1,000円

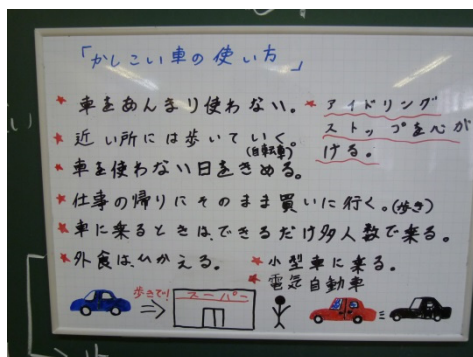
■ 授業の深度化（ガリバーマップを使った授業の実施）

- 良く訪問する場所（ショップセンター、公園等）へ移動する際の交通手段を色が異なるブロックで積み重ねることにより、自動車利用の多さを実感できる（赤：クルマ、青：公共交通、緑：自転車・徒歩）。
- パワーポイントで自動車の問題点等を学んだ後、再度ブロックを積み重ねることにより、その効果が確認できる。
- 最後に日頃の生活の中でできる「かしいクルマの使い方」を考え、お互いに発表する。

〈ガリバーマップを使った授業の様子〉



〈児童が考えた「かしいクルマの使い方〉



※ガリバーマップは筑波大学公共心理研究室からの支援、交通エコロジー・モビリティ財団の「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）」にかかわる学校支援制度を活用して作成

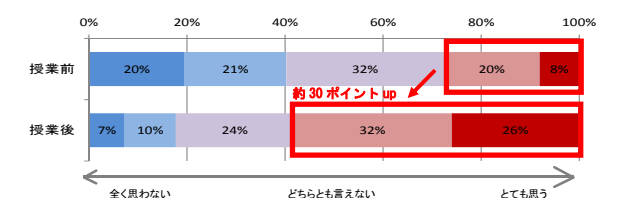
■ 授業の効果（児童・保護者の意識の変化等）

- 授業により、児童、保護者の交通環境に対する意識の向上がみられた。
- 副読本の配布等により、保護者の意識の変化もみられた。
- また、担任の先生への意見照会では

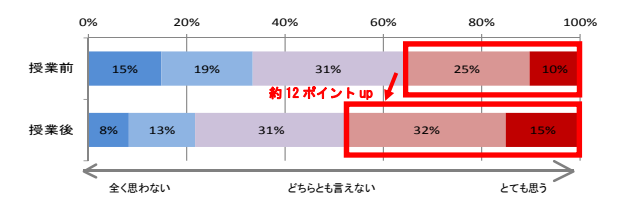
- ✓ 実際に電車に乗って移動してみたいと報告してくれる子がいた。身に着いている様子が見られた。
- ✓ 自分たちから行動するという意識（自主性）が芽生え、総合の学習につなげることができた。
- ✓ グループで意見を交わし、伝え合う機会を作ることができた。本校研究テーマ（伝え合い）に合っていた。

といった意見が寄せられた。

問「できるだけクルマを控えよう」と思いますか（平成28年度）
上記の質問に対する「児童の意識の変化」



上記の質問に対する「保護者の意識の変化」



※児童の回答は、事前、事後の両アンケート調査に回答した児童1,181人を対象とした調査結果。保護者の回答は、事前、事後の両アンケート調査に回答した保護者1,054人を対象とした調査結果。※車を控える意識が増加した

■ まとめ（今後の展開）

- 平成17年度からの継続的な授業の実施や研修会の開催など、教職員を支援することにより、学校の先生が主体となって授業が実施されるようになった。
- また、従来は年3～4校での輪番による実施が中心だったが、近年は主体的な取組みを行っている小学校を含め、毎年ほぼ全校で授業が行えるようになった。
- 今後は、物件やカリキュラム及び授業内容の改善・深度化、マニュアルの充実を図りながら、さらに効果的な授業ができるよう取組みを進めていく。